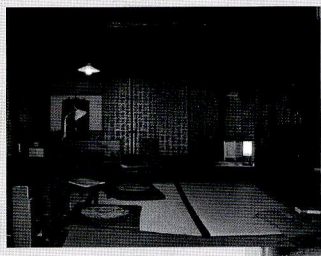
京都CF information

もうひとつの京都CF！がここにあります。京都CF！スタッフブログ

「京都CF！編集長の無責任、町案内」「nao´s 京都牧遊記」など、京都CF！のスタッフが京都の街を綴ります。スタッフが街で見つけてきたオモロイもん、誌面では紹介できなかった取材の裏話や取材の現場をなどを、日々の奮闘ぶりと共に垣間見ることのできるのがこのブログ。スタッフブログへのアクセスは、下記の京都CF！ホームページからどうぞ。

http://www.kyotocf.com/

今月のオレが甘かった



見るからにおどろおどろしい2Fのカフェ。築100年は床をも変形させ、平衡感覚もなくなる始末。ふらふら歩いていると見えない何かとゴッツンコ…みたいなこともありえるかも

100年前からの因縁の地!? ある意味最強（最恐？）の夏店。

幼き頃、遊園地のお化け屋敷の入り口での記憶が甦る。ななめの屋根に「妖怪堂」なる看板…目をつぶりながら思い切って店内突入！ 1階にはモノノケ、ではなくおもちゃや古着・妖怪グッズが並び、2階はカフェなんだけど、見えないお客様で満席ってこともありえなくない雰囲気。事実、「開封してない缶チューハイが軽くなってて、飲みに来たはるらしいんです」と店主。初めてあちらの方の存在を実感。知らぬ間に酌み交わす仲になってるのも悪くない、かも…。

■左京区某所
京阪三条から徒歩3分

この世もあの世も大歓迎!?

Kyoto Car-Moratorium ～京都人のクルマ知らず～

「規律」と「自由」と「いけず」

7th Lap

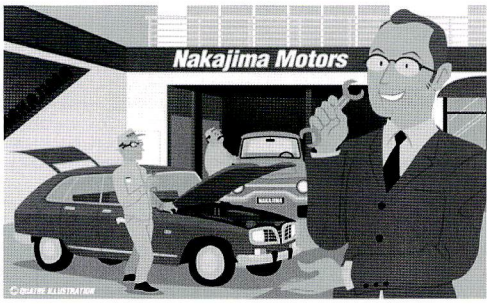
ドイツにサッカー観戦に行った友人が、「記念にアウトバーンを走ってきた」という。アウトバーンといえば制限速度無制限のハイウェイ。豪快に300kmオーバーを体験してきたのだろうと思いきや、「ここは速度無制限なんだから…」と何度言い聞かせても、「パトカーと遭遇する度に急減速して、結局アクセルを全開にできなかった」と彼は笑った。

日本の交通社会は、数多くの規則に縛られている。最近では「携帯電話」「飲酒運転」「駐車違反」の罰則が強化された。予選リーグ敗退に終わった先のW杯。'02年、選手に「規律」を重んじたトルシエはさしずめ「日本の高速道路」、'06年、「自由」を重んじたジーコは「アウトバーン」か。規則に縛られることによって安心感を得て、逆に「自由だ」と言われると不安になってしまうのが日本人だとしたら、'10年を目指すオシムはどんな道路になるんだろう。

「いけず」という言葉がある。「意地悪」という意味で、よく京都人を表して使われるが、それはお行儀だともいう。

仕事柄、色んな車に乗ってあちこち走るのだが、車線変更時、大きい車に乗っていれば譲ってもらえても、軽自動車に乗っているとクラクションを鳴らされたり幅寄せされる「いけず」に遭うことが多い。これも道路上に生まれた車の大きさやフォルムによる、交通法規以外の「規律」である。旅先で出会う親切は嬉しいものだが、その土地の気質は、車に乗っている時に本当に解るんじゃないか思うことがある。

京都を旅行される際は、観光地の散策とともに都大路、とりわけ堀川通あたりを軽自動車で走ってみると、意外と京都人気質に出会えるかもしれない。



中島　崇（なかじま・たかし）

'68年生。自称「車選びの達人」。創業昭和38年、北区は紫野の自動車屋・(株) 中島商会の二代目社長にして「安くていい車」を探すスペシャリスト。かつて自動車オークションの取引で2000万円をドブに捨て、大失敗の連続から学んだノウハウをまとめた無料小冊子「その車に手を出すな！」も好評。中島流「車道家元」を目指す京都人。

林的映画三昧

イラストと文 ハヤシチサコ

ハヤシチサコ・無類の映画好きのイラストレーターにしてグラフィックデザイナー。「Club Fame」時代には、彼女のデザインが表紙を飾ったこともアリ。編集部の熱望により本誌への登場と相成った。